

第 54 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会②）

開催記録

1 開催概要

- 日 時：令和7年4月9日（水）10：00 ～ 12：00
- 場 所：JR 東日本 現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・ 東京都 交通局 建設工務部 計画改良課 ・ 独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・ 独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 まちづくり部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部 ・ 京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 ・ 京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部
サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配付資料

2) 部会②

- ・ 次第
- ・ 資料1：京急線連立 遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

2 議事要旨

2.1 部会②

(1) 開会

- 第 54 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会②を開会する。(事務局)

(2) 京急線連立 遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

- 資料 1 について説明する。(京急)

<説明概要>

- 第 8 橋梁南横仕切堤付近東側の未施工の仮受杭の打設位置の見直しである。
 - 当初は 8 本の杭を打設する予定であったが、特殊構造とすることでスパンを 13.5m 確保する案を第 34 回委員会で提示し、承認を得ているもの。
 - この準備工として口元管を設置していたところ石積みと胴木が確認され、杭打設位置の変更依頼を港区から受けた。
 - 検討した結果、口元管設置位置を北側に 465mm ずらすことで石積みと胴木を避ける計画としたい。
 - 石積みから 100mm の離隔でライナーを設置するという考え方である。
 - この仮受け杭の打設について判断をいただきたい。
- 南横仕切堤の北側の石垣が検出された。大型の石で、恐らく東海道の護岸の石をそのまま使ったのではないかとと思われるほど立派な石である。前面にあるいくつかの石は、恐らく崩壊や投げ込まれた石であると現場で判断を行った。港区の意見をもらいたい。(委員長)
 - ← 前面の石は、明らかに間知石の体を成しているものもあるが、元々積まれたものが崩れた、もしくはその付近の石垣が崩れたものと考えており、いずれも原位置を保っていないと判断した。石の取り上げ後、その下部に石などがいないか探針等で確認するよう依頼したが、支障物は何もなかったという報告を現場から受けている。(港区)
 - 図示される間知石の形状の点線部分は推定か。もう少し前のめりになっている気がする。(小野田委員)
 - ← 推定である。(港区)
 - 点線の意味を注記する修正を行ってもらいたい。(委員長)
 - 仮受け杭の打設については、可という判断としたい。(委員長)
 - ← 異議なし。(委員一同)

← 現地調査及び指導等に感謝する。仮受け工事を進めていきたい。(京急)

(3) 閉会

3 議事録

3.1 部会②

開会

(委員長) 次第に沿って進める。

(1) 京急線連立 遺構への影響低減に向けた仮設計画の見直しについて

(京急) 資料 1 について説明する。第 8 橋梁南横仕切堤付近東側の未施工の仮受杭の打設位置の見直しである。当初は 8 本の杭を打設する予定であったが、特殊構造とすることでスパンを 13.5m 確保する案を第 34 回委員会で提示し、承認を得ている。今回、この準備工として□元管を設置していたところ、高さ T.P.0m~-1m の範囲で石積みと胴木が確認され、杭打設位置の変更依頼を港区から受けた。検討した結果、□元管設置位置を北側に 465mm ずらすことで石積みと胴木を避ける計画としたい。石積みから 100mm の離隔でライナーを設置するという考え方である。この仮受け杭の打設について判断をいただきたい。

(委員長) 南横仕切堤の北側の石垣が検出された。大型の石で、恐らく東海道の護岸の石をそのまま使ったのではないかと思われるほど立派な石である。前面にあるいくつかの石は、恐らく崩壊や投げ込まれた石であると現場で判断を行った。港区の意見をもらいたい。

(港区) 前面の石は、明らかに間知石の体を成しているものもあるが、元々積まれたものが崩れた、もしくはその付近の石垣が崩れたものと考えており、いずれも原位置を保っていないと判断した。また、石の取り上げ後、その下部に石などがいないか探針等で確認するよう依頼したが、支障物は何もなかったという報告を現場から受けている。

(京急) 現地指導等に感謝する。

(小野田委員) 図示される間知石の形状の点線部分は推定か。

(港区) 推定である。

(小野田委員) もう少し前のめりになっている気がする。

(委員長) 点線の意味を注記する修正を行ってもらいたい。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 仮受け杭の打設については、可という判断としたい。

(委員一同) 異議なし。

(京急) 現地調査及び指導等に感謝する。仮受け工事を進めていきたい。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(2) その他

(委員長) その他は何かあるか。

(3) 閉会

(委員長) 特になければ部会②を閉会し、部会③に進める。

以 上